

1. 6 サルの行動観察体験（生物分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

生物の学習で重要なのは本物を見るということである。生物には「動物の行動」という単元があり、理系生物選択者は3年次にこの部分を学習する。先輩たちがハフマン先生の特別講演を聴き、実際にニホンザルを観察してみたいという生徒からの希望で計画したワークショップである。

(2) 研究開発の経緯

今年度も引き続き、京都大学霊長類研究所の古市先生のご協力を得て、ニホンザルの行動観察実習を実現することができた。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は科学への関心や批判的思考力などの「科学リテラシー」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

対象生徒 普通科2年理系生物選択者14名

日時場所 6月15日（日）

京都大学霊長類研究所

実施内容 ワークショップ

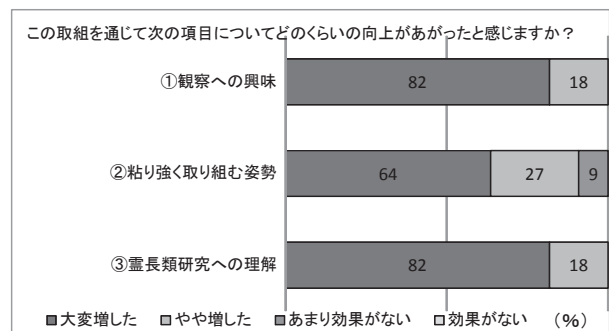
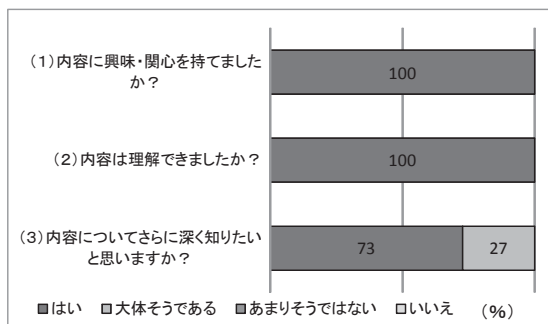
講師 京都大学 古市 剛史 先生

内容 霊長類の進化の講義、ニホンザルの行動観察、チンパンジーの実験見学、ニホンザルの社会構造の講義



サルを観察する生徒たち

ウ 検証（成果と反省）



生徒の感想から

- ・サルの一つ一つの行動が意味のあるものとわかり、さらに動物の行動への興味がわきました。また、チンパンジーが勉強しているところを近くで見て、慣れたようにタッチパネルを使っていて彼らの知能の高さにも驚かされました。私たちにガラスをたたき威嚇されたことにびっくりしました。
- ・知識を原理や仮説として教えてくれるのではなく、具体例や先生自身の実体験、それにまつわる知識まで教えてくださったので、いろんな方面からサルの行動の進化を知り、考えることができました。
- ・チンパンジーをすごく近くで見ることができてとても貴重な体験になりました。彼らはとても大きく、知性的で、人間に近い存在であるのだということを私たちは肌で感じました。

生徒のアンケート、感想からも本物のニホンザルやチンパンジーを見る、彼らをしばらく観察するという事は、授業ではできない貴重な体験で、当初の目的は果たされたといえる。来年度も是非このワークショップを計画したい。